

市民サロン塾 第4回 平成28年7月8日(金) 13:30~15:30

「手作り染物」

◇ **どんな色に染まるかな !**

講師: **難波田城資料館 田ノ上 和宏**

受講生 11 名、スタッフ 3 名の 17 名の参加
(難波田城資料館 学芸員 河野悦子氏、清水澄子氏)

田ノ上講師からの難波田城資料館がどうして藍染に関連したことをしているかの説明がありました。埼玉と藍染は明治以前にもこの地域で藍が栽培されたとの書物の記述もあり、明治 30 年ごろには埼玉県は第三位 (3,028 町歩) で、第一位は徳島県 (12,822 町歩) 全国でも有数の藍染が盛んでした。県内も荒川、利根川などの流域に偏在し、水に恵まれた河川に沿った地域の富士見市でも鶴瀬、水子、針ヶ谷で盛んで、紅花も鶴瀬 (山室) あたりで盛んであった。



歴史的背景の説明のあとは、染の種類、藍染の方法、自然の藍染と人工藍染について話され、藍の鉢植えの葉も見せていただきました。難波田城公園の長屋門の右手 (ポスト横) に植えてある綿の隣に藍が植えてあり、展示を兼ねていますので、是非見にきてくださいとのこと。

いよいよ藍染です。白いハンカチを染めます。3 枚のハンカチを各自のセンスで作品を作ります。受講生は河野様、清水様に藍染の手順を教わり、それぞれが、ハンカチをビー玉、箸などを使って、輪ゴムで縛ります。次によく染まるように水に浸します。今回は人工藍を使いまいした。5 リットルの 40 度ぐらいのお湯を少しずつ加えて、棒で攪拌する



と泡も発生します。あらかじめ水に浸した、縛った作品を4分程度つけて、手で藍が行き渡るようにします。次は新井桶に張った水で余分な藍を洗い落とします。薄緑の色の部分もその際に酸化して藍の色がはっきりしてきます。よく洗って乾かすと出来上がりです。

また、藍が落ちないようにするには酢水を使うとよいとのことでした。

作品を一生懸命（真剣に）に取り組んで思った通りにできた人、思った模様でなくてもなかなか面白い作品が出来上がりました。受講生からは、初めて藍染をやって、楽しかったので来年もやりたいなどの声がありました。



道具など難波田城資料館より持参していただき、藍染の素敵な作品が出来上がりました。難波田城公園でとれた藍の種もいただき、皆さんが自宅で育てて藍染に親しんでください。資料もご用意いただき、ありがとうございました。

後記：講座で作ったハンカチを3枚を使って、バックを作ってみました。
いかがでしょうか？

